

## 令和3年度 東京都立足立特別支援学校 学校経営報告

校長 鈴木 常 義

## 1 今年度の取組と自己評価

## 【A 学ぶ】

## (1) 人権を尊重した教育の充実

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①生徒の人権に配慮した指導の徹底	ア 自己肯定感、自尊感情や互いを思いやる気持ちの育成	随時(全教育活動)	随時実施	◎
	イ 乱暴な態度や言葉、追い込む指導等の禁止	不適切な指導ゼロ	不適切指導ゼロ	◎
	ウ 人格を尊重した「さん」呼びの推奨	随時(全教育活動)	随時実施	◎
	エ 視聴覚教材を活用した人権教育の実施	年間1回以上	実施	◎
	オ 生徒の手本となる教職員の言語環境の整備	研修年間1回以上	ミニ講座で毎月実施	◎
②体罰・いじめの早期発見の推進と防止の徹底	ア 体罰を生まない職場風土醸成のための研修の実施	年間3回	年間3回実施	◎
	イ いじめ早期発見の徹底(チェックリストの実施)	各学期1回	学期1回実施	◎

## (2) 根拠に基づく授業改善と教員の専門性向上

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①アセスメント、外部専門家の活用による授業改善	ア 専門家(障害当事者・OT・PT等)による授業観察及び評価	年間15回以上	17回	◎
	イ 外部専門家を積極的に活用した授業改善の推進	各科・教科1回以上	実施	◎
②主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善の推進	ア 授業者支援会議方式による研究授業の実施	年間15回以上	19回	◎
	イ 授業に関する生徒評価の満足度の向上	肯定的評価90%以上	88.7%	△

## (3) 自立の礎となる生活指導の充実

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①ルールを守る安全・安心な学校生活の実現	ア 校訓(誠心誠意)と「あ(挨拶)・じ(時間)・み(身だしなみ)」の指導	毎月1回以上	毎月実施	◎
	イ 生徒ハンドブックを活用した指導(生活のきまり)	毎月1回以上	毎月実施	◎
	ウ 生活指導だよりの発行	年間3回	実施	◎
	エ 関係機関と連携したSNSに関する安全指導の実施	年間1回以上	中止	—

②安全・安心な通学環境の整備	ア スクールバスの安全な運行と車内事故の防止	車内事故ゼロ	事故ゼロ	◎
	イ スクールバス連絡会、乗務員研修会の実施	年間3回以上	3回	◎

#### (4) オリンピック・パラリンピック教育の推進

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①学校2020レガシーの構築に向けた取組の推進	ア 「4×4の取組」を明確にしたオリンピック・パラリンピック教育の実施	全教科で実施	全教科で実施	◎
	イ アダプテッド・スポーツを取り入れた体育活動の充実	体験3種目以上	6種目	◎
	ウ 芸術・文化活動の推進	出展3展覧会	4展覧会	◎
	エ 国際交流の実施【普・職】	各科年1回以上	実施	◎

#### (5) 読書活動の充実

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①生徒が図書に親しむ環境づくりと学校図書活用の推進	ア 図書コーナーの設置による図書活用の推進	校内POPコンテスト	実施	◎

#### (6) 主体性を育む防災教育の推進

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①現実的な防災・避難訓練の実施と体制整備	ア 現実度の高い避難訓練の実施	年間3回以上	学期1回	◎
	ウ 宿泊防災訓練における総合的な防災学習の実施伝	年間1回(第1学年対象)	中止	—
	エ 伝言ダイヤルを活用した緊急時連絡訓練の実施	年間2回	実施	◎
	オ 教員の救命技能認定証取得奨励	取得率100%	取得89%	△
②地域と連携した大規模災害対策の検討	ア 地域と連携した総合防災訓練の実施	年間1回	2回	◎

#### (7) 安心・安全な環境整備

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①未然の事故防止意識の高揚	ア 学習環境の安全点検の実施	年間2回	実施	◎
	イ 学習指導案に事故防止策の記載	必須	達成	◎

### (8) 指導力の向上

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①個の力を学校全体のものにする	ア 短時間研修の実施	月1回以上	毎月実施	◎
	イ 教育情報の共有化推進	一人一回以上	達成	◎

### (9) ICT教育の推進

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①オンライン学習のための環境整備	ア デジタル教材の開発	各教科1点以上	達成	◎

## 【B つながる】

### (1) 自立と社会参加を目指す進路指導・職業教育の充実

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①各種検定を活用した学習意欲の向上	ア 漢字能力検定、日本語ワープロ検定等の受検推進【普・職】	検定参加者延80名以上	86名	◎
	イ 各種技能検定（清掃、喫茶接遇、流通等）を活用した意欲向上【普・職】	検定参加者20名以上	7名	△
②作業学習・職業に関する専門教科の指導の充実	ア 普通科各作業班の作業内容の充実と生産高の向上【普】	年間売上20万円以上	97,250円	△
	イ 商品の開発・研究と外部販売の充実【職】	年間売上100万円	673,380円	△
③実業意欲向上プログラムを活用した作業学習の充実	ア 葛飾商業高校との連携による販売と作業製品改善【普・職】	◎年間5回以上、モニター1回以上	2回実施	△
④外部専門家を活用した指導の充実	ア 外部専門家による作業内容、方法の指導・助言【普・職】	年間延110時間以上	110時間	◎
⑤個々の実態に応じた進路指導の充実	ア 適性に応じた適切な進路指導の実施	就労率【職】100% 【普】15%	就労率【職】90% 【普】9.3%	△
	イ 個別の移行支援計画を活用した就労支援機関等との引継ぎ	100%	100%	◎

### (2) 地域と連携した教育活動の充実

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
① 主権者教育、消費者教育の充実	ア 足立区選挙管理委員会と連携した生徒会選挙の実施【普・職】	各科年1回	実施	◎
	イ 関係機関との連携した消費者教育の実施	各科年1回	実施	◎
②関係機関と連携した支援会議の充実	ア ニーズに応じた適時迅速な支援会議の実施	年間随時	実施	◎
	イ 外部専門家（SSW）を活用したより効果的な支援策の検討	年間10回以上	16回	◎

③地域における社会貢献活動・交流活動の推進	ア 地域関係機関等における環境整備活動（清掃等）の実施	年間10回以上	実施	◎
	イ 地域自治会を招いての交流活動の実施	年間1回以上	3回実施	◎
④共生社会の実現に向けた理解啓発活動の推進	ア 「オープンフェスタ」への積極的な参加推進	参加生徒25名以上	中止	—
	イ 草加記念体育館での作品展示	年間1回以上	2回実施	◎
	ウ 文教大学でのパン販売実施	月1回以上	12月より実施	○

### （3）積極的な発信・広報

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度数値目標	達成数値	達成度
①インターネットを活用した積極的な情報発信	ア ホームページの積極的活用	更新年間120回以上	124回更新	◎
	イ Twitterを活用した迅速な情報提供	発信年間150回以上	218回発信	◎
	ウ Teamsを活用できる環境整備推進	利用できる保護者65%以上	68.4%	◎
②職能開発科理解推進の充実	ア 足立区を中心とした中学校への理解推進の徹底	足立区立中学校全35校訪問	実施	◎
	イ 職能開発科学科説明会の充実	参加者300名以上	115名	△
	ウ 出前授業・体験授業の実施	年間3回以上	5回	◎

### （4）経営企画室の経営参画

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度数値目標	達成数値	達成度
①経営企画室職員の生徒・指導方法理解の推進	ア 授業参観・研修会への参加	各1回以上	実施	◎

## 【C 語り合う】

### （1）部活動の充実

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度数値目標	達成数値	達成度
①部活動・特別活動の充実	ア 運動系、文化系部活動の活動促進	加入率40%以上	41%	◎
	イ 近隣特別支援学校等との交流、合同練習等の実施	年間3回以上	中止	—
②生徒会交流活動の充実	ア 近隣交流校（淵江高校）との交流活動の実施	年間2回以上	中止	—

## (2) 健康づくりと体力の向上

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①健康の基盤となる食育の推進	ア 食育だよりの発行	年間4回以上	4回	◎
	イ 食物アレルギーとエピペンの使用に関する研修の実施	年間1回以上	実施	◎
	ウ 緊急時対応訓練の実施	年間1回以上	実施	◎
	エ 食育相談の実施 (外部ボランティアの活用含む)	年間10回以上	2回	△
	オ 食育講話の実施 (外部ボランティアの活用含む)	年間1回、参加15名以上	中止	—
	カ 肥満防止対策の推進	通信3回以上	4回	◎
②専門家と連携した指導・相談の充実	ア 歯科衛生士と連携した歯科保健指導の実施	年間3回以上	4回	◎
	イ 臨床心理士と連携した生徒相談の実施	年間150回以上	175回	◎
③医療的ケアに関する理解の推進	ウ 医療的ケアに関する理解啓発研修の実施	年間1回	実施	◎

## (3) 保護者・地域とともに進める開かれた学校づくり

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①保護者との連携の工夫・充実	ア オンラインでの研修会・保護者会実施体制の確立	年間1回以上	実施	◎
	イ 学校評価アンケート(保護者)の回収率の向上	回収率80%以上	81.5%	◎
	ウ 学校ミニだよりの発行	年35号	中止	—
②保護者、地域との積極的な情報共有の推進	ア 授業参観週間の実施	50名以上参加	中止	—
	イ 保護者向け進路説明会の充実	年3回、満足度80%以上	95%	◎
	ウ 保護者、地域向け防災講演会実施	年1回以上	中止	—

## (4) ライフ・ワーク・バランスの実現に向けた職場環境の整備

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①教職員各自の「働き方改革」の推進	ア 教職員の超過勤務時間の適切な把握による自己管理意識の醸成	◎平均超過時間45時間以内90%	超過勤務時間45時間未満87.6%	△
	イ データ教材の共有化推進	一人1つ以上	実施	◎
積極的な業務改善と働きやすい職場風土づくり	ア 「マイプラスワン行動」の推進	全教職員	実施	◎
	イ ハラスメントやサービス事故の無い、明るく働きやすい職場環境づくり	服務研修年間3回	実施	◎

## 2 次年度以降の課題と対応策

令和2年度に引き続き、コロナ感染症の影響を大きくうけ、計画どおりの教育活動を行うことは困難であった。生徒・保護者・教職員の安全・安心を第一に考え、可能な限り、できる範囲の中で教育活動や研修等を行った。中止や延期、内容の変更等、余儀なくされた活動は多かったが、オンライン会議やオンライン授業の準備は、急速に進めることができた。特にオンラインにおいて、登校が安定しない生徒とのコミュニケーションツールとして新しい取り組みができるようになったのは、大きな収穫である。

今年度の学校評価を受け、学校運営連絡協議会より提言された次年度の重点課題を踏まえ、以下の三点を柱として教育活動を進めるとともに、他の課題についてもその具体的方策を次年度学校経営計画に示し、着実に対応を進めていく。

### (1) 学習指導に関すること

新しい学習指導要領の教育課程が来年度から実施されるにあたり、本校で取り組まれている学習活動は生徒自身が持つ力を十分発揮できる工夫がなされていると評価できる。新しい学習指導要領の実施に向け、新たに示された生徒に育成すべき3つの資質・能力を確実に育むことができるよう学習指導の充実を期待している。しかし、コロナ禍にあって授業参観の機会が減少していることもあり、保護者アンケートの結果からは生徒の学習指導や活動について保護者と適切に共有できているとは言いがたい。来校の機会が少ない中でも生徒への学習指導の様子を伝える工夫や努力を今後も一層求められるところだと言える。

また、教員アンケートでは授業におけるICT機器の効果的な活用に向けて教職員の強いニーズがあることがわかった。より良い授業づくり、より良い教育活動の展開のためには教職員のスキルアップは欠かせないものである。研修や機器面での環境整備を含め、学習内容を達成するツールとしてICT機器の活用を推進する。

### (2) 保護者との連携に関すること

今年度の保護者アンケート回収率は81.5%と、長年目標としてきた80%に到達させることができた。特に普通科1年生では96.8%という高い値を記録した。このことは、保護者が大きな関心と期待を本校に寄せていることの現れであると言え、学校としてこの期待にしっかりと応えることが求められる。

結果は昨年度に引き続き全体として高い満足度を得られたとともに、肯定的評価が80%に満たなかった項目の数は昨年度よりも減っていて、保護者の満足度の高まりが窺える。しかし、学校での生徒の様子を直接見る機会が減少していることもあり、評価できない回答が昨年引き続きやや目立つ結果となったことも事実である。学校の取り組みについて、しっかりとアピールできるような広報面での工夫やアイデアが必要である。

### (3) 学校の取り組みに関すること

学校経営における取組状況について、学校の課題となっていることをしっかりと捉えている点は評価でき、今後の改善につなげていってほしいと考える。そのためには、例えば今回のアンケート結果で、評価があまり高くなかった項目についてさらにもう一步踏み込み、具体的な課題や改善のヒントがどこにあるのかについてより詳しく精査した。

また、結果を過去3年間の経年比較で見ると、「そう思う」という最上級の評価から「ややそう思う」という次点の評価へと全体的に推移していることも受け止める必要がある。高水準を維持することは難易度の高いミッションではあるが、学校の主役である生徒やそれを支える立場である保護者の満足度が下がることのないように今後も鋭意努めていく

次年度も個々の教員のスキルアップを図りながら、学校全体の指導力を向上させる取り組みを更に充実させて、一人一人の生徒の力の伸長を目指していく。